

---

# 1月の普及活動状況

---

～県下10農林事務所農業普及課と農業経営課技術支援担当の取組～



岐阜県農政部農業経営課

## ＝ 目 次 ＝

ダイジェスト版	1
---------	---

### 各農林事務所農業普及課

岐阜農林事務所農業普及課	4
西濃農林事務所農業普及課	6
揖斐農林事務所農業普及課	8
中濃農林事務所農業普及課	10
郡上農林事務所農業普及課	12
可茂農林事務所農業普及課	14
東濃農林事務所農業普及課	16
恵那農林事務所農業普及課	18
下呂農林事務所農業普及課	20
飛騨農林事務所農業普及課	22

### 農業経営課技術支援担当

農業経営課技術支援担当	24
-------------	----

## < 1月普及活動状況ダイジェスト版 >

### 新たな産地づくりの推進 ～活力ある新産地づくり～

#### 揖斐農林 ■かぼちゃ かぼちゃの産地づくり検討会を開催

1月27日揖斐総合庁舎でかぼちゃの検討会を開催した。生産組織、JA、市場等、18名が参集し、品種、病害虫対策、排水対策等の課題について検証、次年度の対策について意見交換を行った。解決困難な課題もあるものの、次年度は新規栽培者1組合、栽培面積が30～50a増える見込みとなった。また、今年度はJAいび川の協力によりロロンのパウダーを使用したうどん、パンの試作も行った。

今後も農業普及課では、土地利用型の営農組織が取り組むかぼちゃの省力栽培を基本に実証していく予定である。



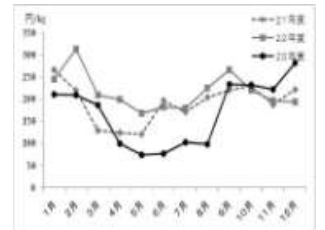
#### 中濃農林 ■円空さといも 円空さといも産地振興プロジェクト推進委員会

12月26日と1月18日に、円空さといも産地振興プロジェクト推進委員会の事務局会議を開催し、「円空さといも指定店」及び新規栽培者募集について検討を行った。

円空さといも指定店は、準備が整い次第、募集が開始され、認定された店舗にはPR看板が設置されることとなる。また、新規栽培者の募集については、農業普及課、JA、中濃里芋生産組合が連携して、勧誘活動を行っている。

#### 可茂農林 ■青ねぎ 青ねぎに関する関係者打ち合わせ会議を開催

加工用青ねぎは坂祝町で取組が始まり、近年では可児市内でも生産が広がっている。しかし、両者の栽培方法や出荷先は異なっており、これまで連携することがなかった。そこで、農業普及課とJAめぐみの担当者間で、それぞれの状況を確認し、今後の連携の可能性を検討することとした。会議は12月21日に開催し、農業普及課から実証ほの成果や近年の動向等を報告するとともに、情報交換を行った。今後とも、会議を重ねて、両者の連携のあり方を探ることとした。



H 21～23年坂祝町  
青ねぎ単価の推移

#### 東濃農林 ■ブロッコリー 来作にむけて品種を検討

出荷は、晩生品種のキャスルが終盤を迎えている。今年度は、JAとうと主催の野菜づくり塾の対象品目として取り上げたことから、初めて販売を経験した農業者が大半であった。したがって、生産者は、栽培のみでなく、適期収穫や商品としての荷姿づくり等一連の新しい体験を得た。中でも塾生の早生種収穫期が、一時期集中したことにより、やや販売に苦戦したことは、品種構成や作型の重要性を理解するきっかけとなった。来作に向け、長期出荷を目指した品種検討をする農家の声



【野菜づくり塾生のほ場の様子】

#### 下呂農林 ■龍の瞳 24年産のさらなる飛躍に向けて

「龍の瞳」の集荷量は、前年の1.5倍の約300tであり、年々増加している。

しかし、例年品質等にバラつきが見られ、さらなるブランド化を図るためには、栽培面の見直しが不可欠となっている。そこで農業普及課では、低品位米の発生要因等について県内生産者約150人の品質等を調査し、栽培地の条件等を加味して分析したうえで、1月30日に次年度以降の対応策について打ち合わせを行った。これまでの調査の結果、気温の差が粒の大小等の米の品質差につながっているようであり、中でも最低温が大きく影響を与えているように推察できた。



【龍の瞳生産振興関係者打ち合わせ】

農業普及課では、22年度および23年度の調査分析結果から得られた知見を基礎に24年産の各種調査ほの設置に向けた生産者への説明、具体的な提案等を行っていく予定である。

農業普及課では、22年度および23年度の調査分析結果から得られた知見を基礎に24年産の各種調査ほの設置に向けた生産者への説明、具体的な提案等を行っていく予定である。

農業普及課では、22年度および23年度の調査分析結果から得られた知見を基礎に24年産の各種調査ほの設置に向けた生産者への説明、具体的な提案等を行っていく予定である。

## 飛騨農林 ■宿儺かぼちゃ 宿儺かぼちゃ反省会開催！

1月13日、高山市役所丹生川支所にて宿儺かぼちゃ研究会主催による「宿儺かぼちゃ栽培反省会」が開催され、生産者75名が出席した。今年度は天候にも恵まれ、出荷量は156t（前年比148%）まで回復したものの、最盛期の7割程度にとどまった。

農業普及課からは、次年度に向けて病虫害防除の徹底による安定生産や追熟・選別の徹底による品質向上について説明し理解を求めた。



【栽培反省会（丹生川町）】

## 主要農産物の生産振興 ～売れる農産物づくりと産地の強化～

### 西濃農林 ■かき 剪定講習会

1月24日に南濃町柿研究会の剪定講習会が開催された。今年は、台風の影響により炭そ病が、9月以降の高温でヘタスキ果が多発した。講習会では、ヘタスキ果対策として、徒長枝も生かすような弱剪定法の実技指導、炭そ病対策として、落ち葉、剪定枝の処分、5月下旬に殺菌剤散布を基幹防除に加えること等の情報提供をした。



### 恵那農林 ■トマト・なす 三者面談で次年度計画づくりを支援

1月中旬から下旬にかけ、管内各地区において夏秋トマト・なすの三者面談を行った。これは、生産者と農業普及課及びJA営農指導員の3者で、個人毎の生産販売実績や栽培履歴を元に、問題点と次年度に向けた課題を明らかにし改善をすすめるとともに、土壌分析結果に基づき施肥設計等を行うものである。

トマトについては、産地として後半出荷量を確保するため、個人毎に後半出荷量の程度に応じて、主枝更新や晩期作型等いくつかのメニューを提示し改善の取り組みを促した。またなすについては、今年の実態調査結果をもとに、窒素施肥量と収量の関係をチェックしながら確実な施肥量の確保を指導するとともに、生産者自ら新たな仲間を呼び込めるよう地域での声かけを行うよう雰囲気作りを行った。いずれにせよ、次年度の生産者個々の経営改善と産地の持続性確保に向けては重要な機会であり、今後も関係者一丸となって取り組んでいく行事としていきたい。



【剪定講習会の様子】

## 地域の動き等 ～魅力ある農村づくり～

### 郡上農林 ■農商工連携によるエゴマの新商品開発支援

郡上市内の(株)白鳥フーズ（食品加工）では、看板商品である「エゴマ豆腐」について、地元の郡上市産のエゴマを使っていきたいと考えていたため、農業普及課が仲介してエゴマ生産者との繋がりを作った。

23年産のエゴマを納品する際に行った、加工業者と生産者との意見交換では、加工側から、エゴマを使った新商品開発も行っており、エゴマ商品の販売を拡大したい意向が伝えられた。それに対して、生産者も協力していきたいとし、必要数量に近づけるよう地域農業者を募って取り組んでいく合意形成ができた。

エゴマは収穫後の調整に手間がかかるものの、栽培が容易で、イノシシ等の獣害を受けにくい作物であるため、農業経営課では、今後は耕作放棄地を活用した栽培普及を展開する。



【意見交換と試食会】

～農林事務所農業普及課、農業経営課技術支援担当の取組～



# 岐阜農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成24年1月20日現在

## 今月の重点活動

### (アスパラガスの冬季管理を栽培指導)

岐阜地域の農産物直売所に出荷しているアスパラガス生産者を対象に冬期栽培講習会を開催した。2011年産は全国的な高温で不作だったものの、生産面積は拡大して販売数量は昨年実績を上回った。

アスパラガス栽培は比較的高額な初期投資が必要な上、定植から収穫までに約2年の株養成が必要である。このため、昨年定植した新規栽培者にとって初めてとなる茎葉刈り取り、バーナーでの焼却、春からの生産安定と病害対策について指導した。

今後も高収入が期待できる長期取りの実現に向け支援を行っていく。



【講習会の様子】

## 主要農作物の生産振興

### ■ 水稲

#### (来年度に向けたJAぎふ特別栽培米指導)

特別栽培米生産協議会の役員会が1月12日に開催され、今年度の栽培結果と来年に向けた栽培計画などについて検討を行った。農業普及課からは、今年実施した施肥試験の結果や来年度の栽培ポイントについて説明を行った。収量・品質は良好であったことから、来年度の栽培体系について特に大きな変更をせずに取り組むこととなった。栽培面積は、128ha(前年比101%)予定ある。

### ■ 麦

#### (23年度全国麦作共励会及び岐阜県麦作共励会)

本巣市安藤重夫氏が全国麦作共励会で日本農業新聞会長賞、岐阜県麦作共励会で岐阜県知事賞の受賞が決定した。全国は2月21日、県は3月2日に表彰式が開催される予定である。

### ■ かき

#### 次年度に向けた間伐・剪定指導の実施！

各振興会で会員を対象に12月中に開催した間伐・せん定講習会に加えて、会員の中で栽培経験が浅い等の生産者(㊦ブランド柿育成クラブ、婦人部、基礎学習会等)を対象にせん定講習会を開催し、技術の底上げを図るべく指導を行った。

また、農業普及課では、各地区の間伐支援のため、切る枝のマーキング指導を行っている。特に真正地区では振興会合併にともなう圃場環境整備の要望が強く、依頼も多い状況となっている。

㊦柿振興会では1月28日及び2月中旬、瑞穂市柿振興会では2月22日、岐阜市かき共販振興会では2月下旬頃に間伐検査を実施する。

さらに、産地維持のためシルバー人材センターの利用も増え始めており、本巣市では1月10日、瑞穂市では12月27日にせん定講習会で指導した。

#### 次年度の防除こよみ検討

JAぎふ管内の柿振興会(5振興会)の防除暦の検討をJAぎふ果樹担当、資材課担当者等と1月10日に行った。現在は振興会毎に作成しているが、将来的にはJAぎふ管内1本化する方向で、防除回数、薬剤を出来る限り合わせるように検討した。今後、各振興会に説明し、印刷・配布していく予定。

### ■ いちご

### （ぎふいちごとぎふクリーン農業PR活動支援 高岡市）

本巣地域園芸特産振興会いちご部会では、毎年主要出荷先の富山県高岡市で開催する鍋祭りにあわせて、ぎふいちごのPR活動を行っている。本年は、国体のPRも兼ねて実施した。当日は、試食用いちごの配布、ぎふクリーン農業のPRも行った。1月8日にNHK番組「産地発！たべもの一直線」で本巣市いちごが放映されたこともあり、とても好評であった。



【林会長からPR】



【国体とJAぎふのPR】

### （青年部主体の農商工連携への支援）

岐阜市園芸特産振興会いちご部会では、青年部を中心にいちごの加工品づくりを進めている。しかし、自分たちだけでは良い商品が出来ないこともあり、地元の菓子屋、原材料販売会社、岐阜商工会議所や中小企業診断士、岐阜信用金庫などの協力を得て、商品開発等の取組を進めている。

少しずつ商品化が進みつつあるため、2月4日、5日にマーサ21内で、岐阜信用金庫主催のイベント「岐阜の美味しいものが食べたい！」で販売することとなった。

青年部では、商品の販売のほかに、生食用のぎふいちごのPRも計画をしており支援を行っている。

## 担い手の育成・確保

### ■女性農業経営アドバイザー

#### （本巣市土貴野小5年生と農業交流会を開催）

1月17日に小学生を対象に岐阜地域で営まれている農業（きゅうり・トマト、採卵鶏飼養、柿、鉢花栽培）や、農業で収入を得て生活する事について、農業の良さ・苦勞等の理解を目的に農業交流会が実施された。5年生30名とアドバイザー17名がスライドやクイズ、実物展示、農産物加工品の試食等を交え交流を図った。「農業をしようと思ったら、まず何が大事ですか」といった質問に、アドバイザーの皆さんは「やろうという気持ちがあればできる職業です。日本の農業や世界の農業も知ることも大事ですよ。」と回答。その他質問も沢山あり、意義ある一日だった。

農業普及課では、小学校との連携や解りやすい説明資料の作成・プレゼンの方法等について支援をした。



【展示農産物・農産加工品  
を見る児童】

# 西濃農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成24年1月31日現在

## 今月の重点活動

### ■平成23年度の活動成果事例

#### 平成23年度西濃農林事務所農業普及課の普及活動成果報告会を開催

1月27日に西濃総合庁舎大会議室で平成23年度の農業普及課の普及活動成果報告会を開催した。発表内容は「西濃管内におけるハツシモ岐阜SLの普及と今後の課題」及び「冬春トマトの単収向上技術普及と温暖化対策の推進」の2課題で、他にJAにしみの営農アドバイザーの課題研究も発表された。また、岐阜経済大学の教授によるTPPに関する講演会も行った。

本年度の参集者は例年になく多く、会場がいっぱいとなり、熱気に包まれた成果報告会となった。

### ■活力ある新産地づくり支援事業（ブロッコリー）

#### 出荷の状況

12月下旬からキャッスルの収穫が前進化したことや、気温の低下により、年内に比較して1日当たりの出荷量は減っている。1月18日までの出荷量は90.6t、販売額23,509千円であった。

#### ほ場視察研修会の開催

1月17日に農業普及課主催で大垣、不破、安八の3部会のほ場巡回視察と、室内研修会を開催した。生産者、JA担当者など約50名が参加し、ほ場では、生産者同士が意見交換するなど、熱心に研修を受けた。

#### 小学生のブロッコリー収穫体験

大垣部会の食農教育活動として、青墓小3年生が9月下旬に定植したブロッコリーの収穫体験を1月11日に行い、大きく育ったブロッコリーに小学生は非常に喜んだ。

農業普及課は収穫方法の説明などを行うなど、開催を支援した。



【成果発表会の様子】



【ブロッコリーのほ場視察研修会】

## 主要農作物の生産振興

### ■小麦

#### 生育状況

茎数はイワイノダイチで茎数が500~1,000本/m<sup>2</sup>程度であるが、全体に播種期を遅くしたこともあり、昨年より少なめでありが、農林61号の500~700本/m<sup>2</sup>程度とともに、茎数は順調に確保されている。

両品種とも12月、1月が低温傾向であったことから、分けつ数等、生育は緩やかに推移している。

### ■大豆

#### 収穫状況

収穫は年内に大方の地域で終了したが、は種時期が遅かったほ場では12月の天候が安定しなかったこともあり、一部のほ場で1月にずれ込んだ地域があった。

また、生育があまり良くなかったことから、刈り取り位置が低めになりやすく、土や雑草等の混入が原因で汚粒となり品質が低下した地域があった。なお、現在、調製作業中で収量、品質等はまだ確定していないが、収量、品質ともに昨年を下回る見込みである。

### ■トマト

#### 出荷の状況

12月下旬までの実績（3ヶ年対比）は数量93%、単価125%、金額116%。気温低下に



伴う出荷量の減少で、単価高の傾向が続いている。

### 市場情報交換会や目揃会の開催

各地区のトマト部会で市場情報交換会や目揃会が開催された。有利販売を行うため、出荷量の増加には事前の情報提供が、また厳寒期には着色基準の徹底が議論された。農業普及課は産地情報の提供や厳寒期の管理について説明を行った。

### 新規就農希望者への支援

一宮市から移住し、トマト栽培での就農希望者について、認定就農者と認定することが決定した。現在、近隣の生産者を手伝いつつ、技術を学んでいる。今後、半促成栽培で営農を開始するので、栽培支援を実施していく。

#### ■きゅうり

### 生育・出荷状況及び巡回検討会の開催

12月下旬までの販売実績（対前年）は、数量：94% 金額：96% 単価：102%であった。半促成栽培（12月定植）の生育は概ね順調である。早い人は、12月9日から出荷が始まっている。

1月11日に、巡回検討会が開催され、生産者全戸のほ場を、3班に分かれて巡回調査を実施し、その結果について検討会を実施した。また、黄化えそ病に関わる調査結果と対策について説明した。

#### ■いちご

### 生育状況

1月上～中旬に頂果房の収穫が終了した。腋果房はバラツキがあるが、1月下旬より収穫量が増えてくる見込みである。1月中旬頃より3番果房の出蕾が確認された。

厳冬期となったため、摘蕾の実施、適切な温度管理や電照時間等を指導している。ハダニ類等の害虫の発生が見られ、早期防除の実施を指導している。

#### ■しゅんぎく

### 生育状況

低温と少雨のため病害虫の発生は減少傾向にあるが、年末から過度に切り込んだ株が増えてきているため、生育の遅延が心配される。厳寒期の保温対策とかん水の実施、追肥のやりすぎに注意するよう指導している。

#### ■かき

### 養老町柿栽培の反省と来年度部会活動計画の提案

1月10日に養老町果樹振興会の役員会で、昨年多発した炭そ病が、今年も多発することが懸念されるので、防除体系の見直しや散布後の降雨によっては追加散布を行うことなどの情報提供を行った。また、柿の販売単価を上げるための新技術の導入について、勉強会を開くなど、活動計画の提案を行った。



【剪定講習会の様子】

### 剪定講習会

1月24日に南濃町柿研究会の剪定講習会が開催された。今年は、台風の影響により炭そ病が、9月以降の高温でヘタスキ果が多発した。講習会では、ヘタスキ果対策として、徒長枝も生かすような弱剪定法の実技指導、炭そ病対策として、落ち葉、剪定枝の処分、5月下旬に殺菌剤散布を基幹防除に加えること等の情報提供をした。

#### ■フランネルフラワー

### 春作鉢換え

エンジェルスターは、年末からフザリウム菌による株枯れが多発している。従来品種より早生で開花は安定しているが、逆に開花が早すぎたり、病気に弱い傾向が見受けられる。また、春出荷に向けては、鉢換えが継続中で、出荷の長期化を計画している。

切り花は、9月の定植後からの生育ムラが、引き続いており解消されていない。植換えや株枯れも発生している。きめ細かな水管理が必要となっている。

# 揖斐農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成24年1月31日現在

## 今月の重点活動

■活力ある新産地づくり支援事業（かぼちゃ）

### かぼちゃの産地づくり検討会を開催

1月27日揖斐総合庁舎でかぼちゃの検討会を開催した。生産組織、JA、市場等、18名が参集し、品種、病害虫対策、排水対策等の課題について検証、次年度の対策について意見交換を行った。解決困難な課題もあるものの、次年度は新規栽培者1組合、栽培面積が30～50a増える見込みとなった。また、今年度はJAいび川の協力によりロロンのパウダーを使用したうどん、パンの試作も行った。

今後も農業普及課では、土地利用型の営農組織が取り組むかぼちゃの省力栽培を基本に実証していく予定である。



## 主要農作物の生産振興

■柿

### 平成24年度産の品質向上をめざし、各地で講習会を実施

1月21日、早秋・太秋のせん定講習会（主催：大野町かき振興会）が実施され支援した。当日は52名の生産者が集まり、農業普及課は両品種の品質改善をめざして技術向上を図った。また、大野町下方地区では1月22日、地区代表者の呼びかけで集まった柿生産者（41名）を対象に現地研修を行った。今年度は春先及び開花期以降の気象変動の影響が大きかったため、生理落果やヘタスキの発生の目立つ園が多かったことを踏まえ、研修会では気象変動に左右されにくい生育管理がされるよう、縮間伐や排水改善の徹底について意識向上を図った。

■小麦・大麦

### 生育調査を実施、生育状況は概ね良好

奨励品種決定現地調査、年次変動追跡調査として、小麦では、「イワイノダイチ」「きぬあかり」「さとのそら」の生育調査を実施している。昨年と比べて生育はやや遅れ、茎数はやや少なく推移しているが、生育状況は概ね順調である。

大麦では、「ミノリムギ」を慣行品種として、麦茶専用品種「さやかぜ」「カシマゴール」の品種試験を実施。安定生産に向けた施肥試験についてもあわせて実施している。品種や施肥試験区により茎数や葉色など生育差が見られる。

農業経営課では、今後の生育状況を見ながら高品質安定生産に向けた追肥の実施について情報発信を行う。

■茶

### ぎふクリーン農業の生産登録更新を支援

管内の茶生産組合では、安全・安心の提供、生産性と環境が調和した茶生産を推進するため、11件180.4haが「ぎふクリーン農業」に生産登録されている。本年度、そのうち8件が更新対象となっており、更新手続きを支援した。組合によっては、高齢化に伴う複雑な課題も生じつつあるため、農業普及課では、これを機会に栽培方法、栽培面積、生産工程管理の見直し、今後の取り組みについて検討を行った。まもなく平成24年産の生産を控え、必要に応じて変更手続きを支援してゆく。

また、JGAPに取り組む(農)桂茶生産組合では、団体事務局、JAいび川、農業普及課とともに、万が一のクレーム、実需者からの要望が多い生産履歴の提供に備え、トレサビリティ・クレームチェックを行った。模擬事例により問題事案が起こってから要求者への顛末説明までを実地に行った。その結果、現在行われている記録内容、方法に

不備は無かったが、生産工程の単位をより小さくしていくための方法について議論を重ねている。

## 担い手の育成・確保

### ■新規就農者

#### ■青年就農給付金等への対応

県では、新年から実施されている青年就農給付金に係る就農相談業務が求められている。新規就農希望者、すでに就農開始した該当見込み者など、個別の状況に応じ関係機関と連携しながら支援している。

### ■集落営農組織

#### ■地域農業の維持に向けた話し合い

1月25日揖斐川町坂内地区で集落営農に向けた研修会が開かれた。6月から1月までの8ヶ月間、集落営農サポーターが住民の生活の中に入って意見を聞き取った活動が報告された。また、今回の取り組みを契機として、住民同士が将来の地域農業のあり方を話し合う場を継続してもつことの重要性が再認識された。

これから年度内に集落営農や鳥獣害対策の事例研修を企画し、参加者を募っていくこととなった。

### ■女性農業経営アドバイザー

#### ■西濃ブロックアドバイザー研修会を支援

1月23日、西濃ブロックの会員が集い、西濃管内の戸川アドバイザーを講師にフラワーアレンジメント研修会を開催した。

参加者たちは、思い思いに素敵なアレンジ作品を制作した。

またバラ栽培施設を見学し、経営概要説明の後、戸川氏との質疑応答、参加者どうし情報交換を行い、交流をはかった。



## 地域の動き等

### ■揖斐郡

#### ■揖斐地域の特産品開発研修会を開催

農業普及課では山菜作りの一環として、それらを活用した特産品開発を支援しており、1月27日揖斐川町中央公民館にて、揖斐郡内の農業婦人クラブや加工グループを対象に研修会を実施した。

当日は、参加者が持ち寄ったよもぎや沢アザミ、春日豆などを使った菓子加工品について、恵那川上屋の和菓子開発部長と技術指導部長から評価、レベルアップに向けて貴重なアドバイスをいただいた。

参加者たちは熱心に質問し、今回のアドバイスをもとに試作品に改良を重ね、商品として販売につなげたいと話していた。

### ■揖斐郡（3町）

#### ■農業振興連携会議を開催

1月31日から2日間、管内3町の営農について情報交換を行い、情報を共有し効率的に農業振興を図るための検討会を実施した。町、JA、農林事務所は、日頃連携しながら業務を進めているものの、あらためてそれぞれの機関の方針や事業計画等の情報を把握し、今後必要な連携事項について確認することが出来た。





# 中濃農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成24年1月30日現在

## 今月の重点活動

### ■普及指導計画

#### 営農推進会議で検討

現在、来年度の普及指導計画の策定作業を進めており、1月20日には営農推進会議を開催し、計画案について、関市、美濃市、JAめぐみの等関係機関と検討した。その結果を反映させるとともに、2月下旬の県農政部内協議を経て、計画を確定することとしている。

### ■活力ある新産地づくり支援事業（円空さといも）

#### 円空さといも産地振興プロジェクト推進委員会

12月26日と1月18日に、円空さといも産地振興プロジェクト推進委員会の事務局会議を開催し、「円空さといも指定店」及び新規栽培者募集について検討を行った。

円空さといも指定店は、準備が整い次第、募集が開始され、認定された店舗にはPR看板が設置されることとなる。また、新規栽培者の募集については、農業普及課、JA、中濃里芋生産組合が連携して、勧誘活動を行っている。

### ■就農塾

1月23日に、就農塾（さといも）を開催し、さといもの出荷調製、選別等について学習した。

塾生は、さといも生産者から、さといもの作り方、出荷方法等について話を聞き、生産者が行っている工夫に感心していた。その後、選果場において、選果方法、出荷方法について説明を受けた。



【就農塾の様子】

## 主要農作物の生産振興

### ■大豆 品質

大豆の収穫は終了し、穀物検査が進んでいる。大豆の粒形がやや長くなる傾向が見られ、今のところ2等、3等が多く、1等に格付けされるものは少ない見込みである。

跡作の水稻において、大豆残渣が浮いて田植え作業の障害になることから、来年度の大豆栽培面積の拡大に生かせるよう、ディスクプラウでの天地返しなど、収穫後の管理状況について聞き取りしている。【天地返ししたほ場】



### ■いちご いちごの生育状況

今年の生育は、これまでやや遅れ気味であり、現在は2番果房の収穫が始まったところである。出荷量については、前年並みに推移してきている。

また、1月6日、18日に、いちご共進会審査を行い、関市の3出展者のハウスにおいて、いちごの生育状況やハウスの栽培環境などについて審査した。



【いちご共進会の様子】

### ■夏秋なす 土壌診断研修会の開催

1月11日に、中濃夏秋茄子生産出荷組合の土壌診断研修会を開催し、各成分に過不足なく、バランスの取れた施肥管理をすることの重要性について説明するとともに、生産者ごとに施肥設計案を提示し、次年産なすの生産性向上について支援した。

また、今回の研修は、土づくりと基肥を中心とした内容のため、追肥を含む栽培期間を通じた適切な施肥管理について、意欲の高い生産者を対象に、あらためて研修会を開くこととしている。

### ■ゆず

#### 高温予措処理による品質保持効果を確認

かみのほゆず生産組合では、今後の生産量の大幅な増加を見据え、加工利用期間延長のための生果の貯蔵性向上が課題となっている。

農業普及課では、先進事例を参考に、高温予措処理の貯蔵性向上効



【処理後2か月のゆず玉】



果を検証することとし、完熟期を迎える11月下旬に処理を行い、品質保持状況を観察してきた。1月末には、無処理の果実は、萎びてツヤが無く、果色もオレンジ色となったが、高温処理した果実は、色ツヤとも変化が少なく、明らかな品質保持程度の違いが確認できた。

春先まで品質保持できるか観察を続け、その結果を踏まえ、長期貯蔵施設の導入について検討することとしている。

## 担い手の育成・確保

### ■ブルーベリー

#### 6次産業化を目指し法人化

ブルーベリーによる6次産業化を目指している美濃市の認定農業者が、平成23年12月27日に、(株)紫屋を設立した。

農業普及課では、農業会議の農業経営改善スペシャリスト派遣を受け、中小企業診断士や税理士による個別相談会を開催するなど、経営の法人化を支援してきた。

増大し続ける加工需要に対応するため、早急に規模拡大を図るとともに、それを支える担い手を育成・確保することが求められており、農業普及課では、関係機関との連携を深めながら、今後とも支援することとしている。

### ■日本平成村特産品組合

#### 新商品開発研修会開催

1月30日に、日本平成村特産品組合では、道の駅等で販売する商品を充実させるため、新商品づくりをねらいとする加工研修会を開催した。関市内のイタリア料理店店長に指導を依頼し、そばを使った菓子作りの手順・コツについて説明してもらった後、実習して菓子を仕上げた。今後は、販売につなげられるよう、試作検討を支援していく。

### ■日本平成村特産品組合

#### 農産加工体験教室を通じて消費者交流

日本平成村特産品組合では、1月24日に消費者を対象に味噌加工体験教室を開催した。現在の組合員は味噌加工の経験がないため、地域の農村女性に米こうじづくりから学び、準備を進めてきた。「一度自家製の味噌を作ってみたかった」という参加者は、質問をしながら楽しそうに作業し、規定量よりたくさん仕込んで満足した様子だった。

農業普及課では、体験教室の企画、組合員の味噌加工技術習得講習会、体験教室開催に対し支援を行った。2月14日も行う予定である。



【税理士による個別相談】



【そばを使った菓子作りに挑戦】



【交流しながら味噌づくり】

## 地域の動き等

### ■美濃仙寿菜生産組合

#### 次年度の生産拡大に向けて

美濃市において、岐阜大学で育成された赤色アマランサス「仙寿菜」の栽培が平成21年度より始まっている。本年度から大手量販店での販売が始まったが、栽培技術が確立していないため、生産が不安定で、出荷量が不足している状況である。

このため、農業普及課では美濃市役所と連携し、生産者から栽培実態の聞き取りを行い、技術統一に向けたマニュアル作成を進めている。次年度以降は、生産から販売までの一貫した産地づくりについて、関係機関と連携して支援していく。

# 郡上農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成24年1月31日現在

## 今月の重点活動

### 水田農業法人にタラの芽ふかし栽培を推進

1月26日に(有)大原営農役員を対象に、タラの芽のふかし栽培について研修会を開催した。農業法人では麦、大豆のほか、野菜類の栽培にも着手しており、タラの芽ふかし栽培は、①春～秋の管理がほとんど不要、②農閑期の冬季に出荷ができる、③水稻育苗ハウスが有効活用できる、④獣害を受けにくい栽培方式であることから新規導入への関心が高まった。



【タラの芽ふかし栽培】

## 主要農作物の生産振興

### ■活力ある新産地づくり支援事業（にんじん）

#### （電解水製造装置）

ひるがのファイト倶楽部では、春まちにんじんの産地ブランド化に取り組んでいるが、3月下旬以降の市場出荷後に問題となっている腐敗防止対策として品種、肥料農薬の技術対策に主眼を置き、取り組んでいる。

しかし、出荷後の腐敗防止について栽培面では限界があると判断し、抜本的な対策を検討してきた。

このため、1月23日に腐敗防止対策技術として収穫後ににんじんを酸性水に浸漬殺菌処理する試験を機材メーカーと行った。

この腐敗防止技術は夏だいこんの市場出荷後の腐敗防止にも応用することができ、新技術として期待している。



【電解水浸漬処理】

### ■だいこん

#### （全体座談会）

ひるがの高原だいこん生産出荷組合では、1月26日に高鷲振興事務所でJAめぐみの・全農岐阜肥料農薬課と次年度に向けた栽培研修会を行った。

普及指導員が講師となって、品種、肥料農薬、病虫害防除を中心に座談会を行い、活発な意見交換となった。

2月上旬には切立・鷲見・上野の3地区で地区座談会を行い、農業資材の注文に関する営農相談を行う計画である。



【だいこん組合座談会】

### ■トマト

#### 生産者面談実施

平成24年1月23日から27日の間に、地域ごとに生産者面談を実施した。各生産者個別に時間を取り、前年度栽培の反省点を話し合い、穂木品種、台木品種、導入時期などの検討を行った。

## ■大麦

### 大麦生育調査実施

農業普及課では、大麦は種後月に2回の生育調査を行っている。

1月初めは雪のため中止したが、16日に18か所のほ場で調査を行った。

草丈は昨年よりやや高めとなっているが、一部ほ場で霜の害も発生している他、下葉枯れも多くなってきた。

今後生育状況を確認しながら、追肥の時期と施用量を検討する予定である。



【1月16日の生育状況】

## 担い手の育成・確保

### ■農業簿記研究会

#### (パソコン簿記研修会開催)

毎年恒例となっているパソコン簿記研修会を今年度も開催している。JA（担い手担当）と農業経営課技術支援担当の協力も得て、12月から3月にかけて計8回を予定している。パソコンで簿記記帳することで青色申告の手続きがスムーズにでき、また、記帳データは経営分析にも活用するため、郡上地域では園芸農家を中心にパソコン簿記が普及している。



【パソコン簿記研修会】

## 地域の動き等

### ■農商工連携によるエゴマの新商品開発支援

郡上市内の(株)白鳥フーズ（食品加工）では、看板商品である「エゴマ豆腐」について、地元の郡上市産のエゴマを使っていきたいと考えていたため、農業普及課が仲介してエゴマ生産者との繋がりを作った。

23年産のエゴマを納品する際に行った、加工業者と生産者との意見交換では、加工側から、エゴマを使った新商品開発も行っており、エゴマ商品の販売を拡大したい意向が伝えられた。それに対して、生産者も協力していきたいとし、必要数量に近づけるよう地域農業者を募って取り組んでいく合意形成ができた。

エゴマは収穫後の調整に手間がかかるものの、栽培が容易で、イノシシ等の獣害を受けにくい作物であるため、農業経営課では、今後は耕作放棄地を活用した栽培普及を展開する。



【エゴマの新商品開発】

### ■郡上市高鷲地域

#### 40周年実行委員会設立

ひるがの高原だいこん生産出荷組合は、設立してから今年で40周年を迎えるため、1月24日にJAめぐみの高鷲支店で40周年実行委員会を行った。

平成24年の12月上旬の開催に向け催事内容を詰めていくため定期的に会合を行っていく見込みである。



【40周年実行委員会】



# 可茂農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成24年1月31日現在

## 今月の重点活動

### 「可茂農業をみんなで考える会」を開催

1月27日に、可茂総合庁舎大会議室で「可茂農業をみんなで考える会」を開催した。農業普及課からは、「茶園の早期成園化と産地ブランドの強化」と題して、美濃白川茶産地で進めている茶園の再整備と品質向上に向けた取り組みを報告した。農業振興課は、「農業の6次産業化を目指して」を報告し、その活動事例として、一般社団法人美味作（みみづく）代表の今井氏から情報提供していただいた。講演会では、県農村振興課の酒井鳥獣害対策監が「平成の里普請」と題して、集落ぐるみの獣害対策・耕作放棄地対策について紹介した。



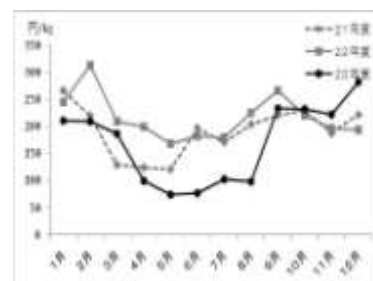
【開会あいさつ】  
加藤農林事務所長  
(出席者：140名)

## 主要農作物の生産振興

### ■活力ある新産地づくり支援事業（青ねぎ）

#### 青ねぎに関する関係者打ち合わせ会議を開催

加工用青ねぎは坂祝町で取組が始まり、近年では可児市内でも生産が広がっている。しかし、両者の栽培方法や出荷先は異なっており、これまで連携することがなかった。そこで、農業普及課とJAめぐみの担当者間で、それぞれの状況を確認し、今後の連携の可能性を検討することとした。会議は12月21日に開催し、農業普及課から実証ほの成果や近年の動向等を報告し、情報交換を行った。今後とも、会議を重ねて、両者の連携のあり方を探ることとした。



H21～23年坂祝町  
青ねぎ単価の推移

### ■小麦 分けつ期

管内における小麦生産は、美濃加茂市と富加町の3経営体に取り組んでおり、本年度は12月末までに播種が終了した。1月末には分けつ期を迎え、茎数は順調に増加しており、生育は概ね良好である。また、新品種「さとのそら」「きぬあかり」の地域適応性を確認するため、富加町の加治田営農組合の協力を得て奨励品種決定現地調査ほ場を設置し、生育状況等を調査中であるが、出芽及び生育は良好である。



【小麦生育状況（富加町）】

### ■柿 堂上蜂屋柿品評会開催

堂上蜂屋柿の加工作業と出荷は、年内でほぼ終了した。本年度は生柿が大玉となり、例年並みの数量を出荷できた。1月12日にシティホテル美濃加茂を会場に堂上蜂屋柿品評会が開催され、56点の出品作品の中から可茂農林事務所農業普及課長が審査委員長となり、入賞10点を選定した。講演会では、フードジャーナリストの向笠千恵子先生から「地域の宝物で、人生いきいき」と題して、各地域の伝統的な食材を例に、堂上蜂屋柿の今後のあり方などをご提案頂いた。



【堂上蜂屋柿品評会で慎重に審査】

### ■いちご 出荷量減少も、販売厳しく

1月下旬現在、頂果房の出荷は終盤となり、2番果の出荷が始まっている。出荷のピークとなった年末年始は、過去3ヶ年より高値で展開した。一方、1月中旬以降は、成り疲れ及び低温の影響で出荷量が減少したものの、価格も下落し厳しい状況となっている。厳寒期を迎えており、草勢維持に向けた管理の支援している。



## ■茶 白川茶手もみ保存会初もみ会

白川茶手もみ保存会は、活動を始めて30年になるが、新春恒例の初もみ会を飛騨美濃特産名人の館「茶・ちゃ・チャ」で開催した。開会式の後、5台の焙炉（ほいろ）を使って手もみが行われた。約6時間かけて出来上がったお茶は、後日県知事に手渡しされる予定である。また、農業普及課は3月4日に開催される手もみ製茶技術競技会を支援する。



【手もみ製茶の様子】

## ■栗 剪定講習会実施

管内の栗産地で剪定講習会を実施し、生産者の技術向上を図った。可児市栗振興会と同特選栗部会が1月16日に、みのかも栗振興会が1月31日に開催し、講師には中山間農業技術研究所中津川支所の神尾専門研究員を招き、剪定方法について講習をうけた。多くの生産者が参加し、熱心に講習会に臨んでいた。管内では生育段階にあった剪定が出来ていない栗園も多いので、改善を図っていく。



【熱心に剪定方法を学ぶ生産者】

## 担い手の育成・確保

### ■新規就農者 新規就農者を認定農業者に

美濃加茂市では、本年度2名が新規に就農しており、彼らに認定農業者となるよう、市と連携して働きかけている。農業普及課では、経営改善計画の作成支援のほかに、次年度予定されている国の就農給付金も視野に入れ、家族経営協定の締結を進めている。その結果、1名については1月25日に家族経営協定を締結する運びとなった。



【いちごパック詰めをする新規就農者】

## 地域の動き等

### ■美濃加茂市、坂祝町 紅かぶ出荷最盛期

12月21日にJAめぐみの主催で、飛騨紅かぶの出荷目揃会が開催された。これは、飛騨高山の漬け物業者から提供された種子による契約栽培である。飛騨紅かぶの栽培は耕作放棄地対策として、農地保全団体等の地域集団も取り組んでいる。本年度は天候にも恵まれ、昨年以上の出荷が見込まれている。農業普及課では、栽培に際しての講習をおこなうなど支援を進めている。



【飛騨紅かぶの収穫風景】

### ■可児市 平成24年新春「岐阜の七草」販売

平成24年新春用「春の七草パック」の出荷が12月31日～1月5日にかけて行われた。「岐阜の七草」と名付けられ、可児市の(有)菱川農場が、ぎふクリーン農業の基準で全て栽培しており、全農系統により今季は23万パックが中京圏内の大手スーパーに出荷された。一部は、JAめぐみの「とれたっひろば」でも販売された。



【岐阜の七草】

### 「環境保全型農業直接支払交付金」に関する実施状況事前確認（第2回）

本年度開始された「環境保全型農業直接支援対策」について、白川町内で15名の有機農業者が申請しており、農業普及課も関係機関と連携して、生産履歴や必要な添付資料の内容等について確認し、書類提出に向けて支援を行った。

# 東濃農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成24年1月31日現在

## 今月の重点活動

### （鶴里地区集落営農組織準備会開催）

土岐市鶴里地区集落営農設立準備会は、組織化を目指し、検討を重ねている。1月20日には、今年度4回目の準備会を開催し、今後の活動方針について検討された。

耕作放棄地の再生が、最も重要な集落の課題であり、その解消を目指すことを中心に活動を展開することでは一致したが、手法等各論では一進一退の繰り返しがあり、その方向性を十分詰めることができなかつた。現メンバーが揃って営農組織設立にむけ行動できるよう、農業普及課としてはさらに根気強く支援することとしている。



【準備会の様子】

## 主要農作物の生産振興

### ■活力ある新産地づくり支援事業（ブロッコリー）

#### （来作にむけて品種を検討）

出荷は、晩生品種のキャッスルが終盤を迎えている。今年度は、JAとうと主催の野菜づくり塾の対象品目として取り上げたことから、初めて販売を経験した農業者が大半であった。したがって、生産者は、栽培のみでなく、適期収穫や商品としての荷姿づくり等一連の新しい体験を得た。中でも塾生の早生種収穫期が、一時期集中したことにより、やや販売に苦戦したことは、品種構成や作型の重要性を理解するきっかけとなった。来作に向け、長期出荷を目指した品種検討をする農家の声が聞こえ始めたことは、収穫であったと言える。



【野菜づくり塾生のほ場の様子】

### ■いちご

#### （天候不順続き）

昨年末から1月上旬にかけての低温と日照不足により、イチゴの出荷量が低迷している。ハウス内の温度確保に努め、量販店の意向に応えたい農業者の努力が続いている。

### ■茶

#### （チャトゲコナジラミ発生確認）

1月25日に病害虫防除所と共同でチャトゲコナジラミの発生状況について調査した。その結果、管内にも幼虫が侵入していることが確認された。発生程度は低く、すす病の発生程度も少なかった。

## 担い手の育成・確保

### ■瑞浪市農産物等出荷者協議会臨時総会

#### （オープンに向けて）

1月24日に「瑞浪市農産物等出荷者協議会」は臨時総会を開催し、「きなあつ瑞浪出荷者協議会」と名称を改めることを主な改正点とする規約改正案が審議され議決された。

これは、瑞浪市農産物等直売所の名称が、公募により、「きなあつ瑞浪」に決定されたことにともない、同出荷者



【臨時総会後の講演会の様子】

協議会も名称変更したものである。当日は、81人の会員と関係者が出席した。

総会終了後、「小規模栽培向けブロッコリーその他の野菜の将来性と栽培について」と題して京都府立大学の藤目名誉教授から講演を頂き、会員は、野菜づくりの基本から新しい野菜の提案まで幅広い話を聴講した。農業普及課では、講師をJAに紹介するとともに長期出荷を目指したビニールハウスの導入、活用等について提案しているところである。

6月のオープンに向けて、参加した生産者が作付け計画を具体化し、多くの野菜が出荷される事を期待したい。

#### ■東濃西部水田農業推進協議会臨時総会

##### (再生協設立)

1月19日、東濃西部水田農業推進協議会は、臨時総会を開催し、同協議会の規約変更による、東濃西部農業再生協議会を設立する議案等について審議し、満場一致で改正案を承認した。

これは、米の需給調整や担い手育成、耕作放棄地対策等に一体的に取り組む体制づくりを進めるためのもので、東濃西部水田農業推進協議会では、従来 of 農業者戸別所得補償制度の実施に関する取り組みに加え、集落営農の法人化支援、農地の利用集積、耕作放棄地再生利用を加えて、組織と諸規定を一括改正し、再編成した。

事務局は引き続きJAとうとが担う。

今後、農地の担い手への集積や新規就農者支援等の新しい施策が展開される予定であるが、農業普及課では、3市どこの農業者も同じ支援が得られる体制づくりが必要と考え、関係機関に対してアドバイスしていきたい。

#### ■いちご共進会開催

##### (生育良好)

県園芸特産振興会主催のいちご共進会の地方審査に続き、県審査が1月19日に実施された。

生育状況(草勢・着果)は非常に良く、目立った病害もなく、糖度も13程度と高い。軟果もなくとても充実していると高い評価を受けた。



【審査の様子】



# 恵那農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成24年1月31日現在

## 今月の重点活動

### トマト・なす三者面談で次年度計画づくりを支援

1月中旬から下旬にかけ、管内各地区において夏秋トマト・なすの三者面談を行った。これは、生産者と農業普及課及びJA営農指導員の3者で、個人毎の生産販売実績や栽培履歴を元に、問題点と次年度に向けた課題を明らかにし改善をすすめるとともに、土壌分析結果に基づき施肥設計等を行うものである。

トマトについては、産地として後半出荷量を確保するため、個人毎に後半出荷量の程度に応じて、主枝更新や晩期作型等いくつかのメニューを提示し改善の取り組みを促した。またなすについては、今年の実態調査結果をもとに、窒素施肥量と収量の関係をチェックしながら確実な施肥量の確保を指導するとともに、生産者自ら新たな仲間を呼び込めるよう地域での声かけを行うよう雰囲気作りを行った。いずれにせよ、次年度の生産者個々の経営改善と産地の持続性確保に向けては重要な機会であり、今後関係者一丸となって取り組んでいく行事としていきたい。



【生産者との個別面談で次年度計画づくりを支援する普及指導員】

## 主要農作物の生産振興

### ■活力ある新産地づくり支援事業（クリ）

#### クリ新規栽培者確保に向けて、栽培基本技術講習会を開催

農業普及課では、1月11日～22日までの4日間にクリ栽培に興味がある方や始めようと考えている方を対象に、クリ栽培の基本知識及び技術習得のための講習会を管内クリ生産農家ほ場2カ所で開催した。今回は96名が参加し、農業普及課による苗木の植栽方法等の実技指導等のほか、農家が講師を務め整枝剪定等の実技指導を行った。その後、農家講師から剪定のポイントを聞きながら、参加者全員で剪定実習を行った。

今回参加のうち39名は、新たにクリを約5haで植栽する意向があり、東美濃クリ産地拡大に結びついている。

東濃地域のクリ産地では、5年前から拡大プロジェクト活動を展開し、クリ栽培基本技術講習会はこの一環となっている。



【剪定実技指導を行う農業普及員】

### ■いちご

#### 新規栽培者もいちご栽培に手応え

1月下旬は例年より寒さが厳しくなっているが、当地域のいちごは「章姫・紅ほっぺ」を中心に頂花房からえき花房に順次収穫が切り替わりつつある。農業普及課では昨年までの調査事例をふまえ、日中の温湿度管理を中心に、厳寒期の効果的な草勢確保について改善を進めており、連続出荷に向けては比較的順調な動きを見せている。

今年から高設（いちごステーション方式）で栽培を開始し



【いちごステーション方式を導入した新規生産者のいちご】



た生産者についても生育は良好である。また、経営面でも中古ハウス資材の利用や経営体育成交付金事業の活用によるベンチ導入など必要な資金の圧縮にも努めたことから、今までのところ、まずは満足している表情であった。

## ■ 飼料用稲

### 鉄コーティング直播栽培の来年度の作付計画を協議～作付計画会議を開催～

恵那地域では、平成23年度から飼料用稲において鉄コーティング直播栽培の取組みが始まっている。農業普及課は1月23日、作付計画会議を開催し2年目となる24年度の取組みについて検討した。

農業普及課からは、23年度の結果を踏まえた栽培のポイントについて説明。また、栽培暦の見直しについて提案し、出席した営農組合、中農研中津川支所、東美濃農協、農機メーカーと意見交換し課題解決に向けて協議した。

24年度からは新たに主食用米での取組みが始まるが、技術確立に向けて関係機関と連携して栽培管理指導を行う予定である。



【栽培方法、作業スケジュール等を協議】

## 担い手の育成・確保

### ■ 農産物直売所、学校給食食材提供組織

### 「また行きたくなる直売所」をめざして～恵那地域農産物直売所等研修会の開催～

当管内には61の農産物直売所や学校給食食材提供組織があり、それぞれが活発な活動を展開し地産地消の中核を担っている。

農業普及課では、農産物直売所等に対する消費者の信頼をより一層高めるための研修会を1月27日に開催し、100名を超える組織の運営者や農業者、食材供給者の参加があった。

当日は、保健所職員による「農産物や加工品の適正表示」の他、農業普及課職員より、農薬の適正使用についての講習、他県の先進直売所の事例を参考に「こんな直売所ならまた行きたい」と言っていただけの、またすぐに取り組み始める提言を行った。



【講師を務める普及指導員】

## 地域の動き等

### ■ 恵那市

### 恵那市岩村町で農事組合法人富田営農が誕生～富田営農組合が法人化～

1月27日、恵那市岩村町で「農事組合法人富田営農」設立総会が開催され、任意の集落営農組織であった富田営農組合が法人化された。当日は、富田営農構成員や関係機関職員多数が出席する中、法人化のための議事が審議・承認され、活動がスタートした。

農業普及課は、土地利用型作物をはじめ、2年前から取り組んでいる経営補完品目としてのブロッコリー等の栽培指導を行い、(農)富田営農の経営安定を支援していくこととしている。



【地域の中核的担い手としての活動をスタート】

# 下呂農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成24年1月31日現在

## 今月の重点活動

■活力ある新産地づくり支援事業「龍の瞳」

### 優良種子生産を目指して

「龍の瞳」の生産は、下呂地域をはじめ県内で年々増加している。23年産作付面積は、概ね岐阜県80ha、内下呂市23ha（推定値）であり、24年産はさらなる増産を目指している。

「龍の瞳」は個人育成品種であり、独自ブランドでの販売のため、(資)龍の瞳で種子生産が行われている。農業普及課では、生産者の安定生産に向けて、指定採種ほに準ずる方法で種子生産の支援を行っている。

24年産用種子については、全量を下呂市内の生産者2人【発芽率調査状況（下呂総合庁舎）】が生産しており、調整等も終了し、発芽率等について調査を行った。

23年産用は猛暑のため、生産された種子の発芽率は低調であったが、24年産用は発芽率も高く、優良な種子が確保出来そうである。農業普及課としては、次年度も今年同様の支援を行うとともに、優良種子生産に向けたデータ集積を行っていく。



【発芽率調査状況（下呂総合庁舎）】

### 24年産のさらなる飛躍に向けて

「龍の瞳」は契約で栽培が行われており、県内で生産された米は下呂市の(資)龍の瞳へ集荷され、一元的に販売を行っている。23年度の県内産の集荷量は、前年の1.5倍の約300tであり、年々増加している。販売状況は好調であり進捗具合は例年よりも良く、予約分を除いて春には売り切る予定である。

しかし、例年品質等にバラつきが見られ、さらなるブランド化を図るためには、栽培面の見直しが不可欠となっている。そこで低品位米の発生要因等について県内生産者約150人の品質等を調査し、栽培地の条件等を加味して分析したうえで、1月30日に次年度以降の対応策について打ち合わせを行った。

千粒重32g前後で大粒を売りにする「龍の瞳」では、千粒重の確保が重要であり、22年産と23年産を比較すると千粒重の平均で1g以上23年産が重かった。また、生産地の標高をみると酷暑であった22年度は高い所ほど千粒重が重かったのに対し、23年度は200~400m程度の中山間地で良好な成績が得られた。

このことは、気温の差が大きな要因と考えられ、中でも最低温が大きく影響を与えているように推察できた。これを踏まえて24年度は、下呂市内の3か所のアメダス地点(萩原、宮地、金山)のデータを活用できる形で各種展示、調査ほを設置し、「龍の瞳」好栽培条件を検証する方向で年間の調査計画等を進めることで合意した。

農業普及課としては、22年度および23年度の調査分析結果から得られた知見を基礎に24年産の各種調査ほの設置に向けた生産者への説明、具体的な提案等を行っていく予定である。



【龍の瞳生産振興関係者打ち合わせ】  
(萩原町)

## 主要農作物の生産振興

### ■夏秋トマト

#### 夏秋トマト生産組合個人面談終わる

来年度のトマト栽培に向けて、昨年末から各々の生産者に対して農業普及課の担当者、J A出荷担当者および営農指導員を交えて個人面談を行っている。

個人面談は、益田夏秋トマト生産組合では昨年末から1月5日に、下呂夏秋トマト生産組合では1月16、18、19日に実施し、今年度の個人面談は終了した。

個別面談では、前年の反省を踏まえて自分のトマト栽培での課題を考え、その課題の解決に向けて今年の栽培計画を立てるよう技術指導および経営指導を行った。

この個人面談により各生産者は、自らの栽培目標を具体的に思い浮かべることが可能となり、生産意欲も高まっている。

また、現在の品種より栽培しやすい品種として栽培試験をしている「サカタ SC4-412」の来年度の作付計画についても話し合った。

### ■ほうれんそう

#### ほうれんそうの個人面談開催

下呂ほうれんそう生産組合では、生産者に対して1月23、24日にJ Aひだ竹原選果場において農業普及課の担当者、J A出荷担当者および営農指導員を交えて個別面談を実施した。

個別面談では、去年の栽培状況についての反省を踏まえて今年のほうれんそう栽培の技術指導および経営指導を行った。

この個人面談の結果をもとに、生産者は、2月から始まる24年作のほうれんそう栽培開始に向けて計画を立てる。

今年は、栽培を開始する新規就農者（Uターン）も初めて個人面談に参加し、栽培開始に向けて意欲を高めている。



【個人面談の様子】

（下呂市野尻 J Aひだ竹原選果場）

## 担い手の育成・確保

### ■新規就農者

#### 新規就農検討会開催

1月19日に下呂総合庁舎で今年度2人目の新規就農希望者から就農計画の認定申請書が提出され、その計画の内容を検討する新規就農計画検討会が市、J A、県等の関係者11人が集まり開催された。

前回は、ほうれんそうによる就農であったが、今回は鉢花による就農希望者である。

今回の会議では、認定申請書の内容について、認定就農者として認定するかどうかを検討した。

農業普及課としても、資金の申請など新規就農が円滑に開始できるよう引き続き支援していく。



【新規就農計画検討会】

（下呂総合庁舎）



# 飛騨農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成24年1月31日

## 今月の重点活動

■活力ある新産地づくり支援品目（宿儺かぼちゃ）

### 宿儺かぼちゃ反省会開催！

1月13日、高山市役所丹生川支所にて宿儺かぼちゃ研究会主催による「宿儺かぼちゃ栽培反省会」が開催され、生産者75名が出席した。

今年度は天候にも恵まれ、出荷量は156t（前年比148%）まで回復したものの、最盛期の7割程度にとどまった。

農業普及課からは、次年度に向けて病害虫防除の徹底による安定生産や追熟・選別の徹底による品質向上について説明し理解を求めた。



【栽培反省会（丹生川町）】

## 主要農作物の生産振興

■飛騨トマト

### トマト個人面談を開催！

J A 営農センター等を会場にして、高山・丹生川地区は先月から、その他の地区は今月からトマトの個人面談が始まった。

農業普及課職員及びJ A 営農指導員がトマト生産者の一人一人と23年度の栽培上の反省点や、それを踏まえた24年度の取り組みについて話し合った。

昨年の平均単収は、前年対比で0.9t増えたが、後半(10月)の出荷量が減少したことが課題となった。そこで、農業普及課として摘果の徹底による後半までの樹勢維持や、栽培可能な生産者には後期作型の導入を提案した。また、新品種（タキイ No15、サカタ412）の栽培も増えるため、これらの品種を栽培するに当たっての注意点（台木の組み合わせ等）についても助言した。

24年度からは高山・吉城地区で新しい選果機が稼働し、さらなる出荷増が求められる。単収増に向けて、この面談で話し合ったことを確実に実行できるよう、今後も支援していく。

■飛騨ほうれんそう

### 高山ほうれんそう部会女性研修会を開催！

1月27日、ホテルアソシア高山リゾートにて高山ほうれんそう部会主催による「高山ほうれんそう部会女性研修会」が開催され、生産者等約50名が出席した。

講師には社会保険労務士の矢島友幸先生を招き、労務管理についての講演があった。ほうれんそうでは、調整作業において雇用する機会が多いので、特に調整作業所での管理・運営を主に任されている経営主の配偶者の方々には、たいへん関心が高く、熱心に聴き入っていた。

農業普及課からは、収穫から出荷までの鮮度保持のポイントとして、温度とともに湿度が大きく関わり、適正湿度は管理方法（予冷か常温）によって異なることを話した。さらに萎れ等の要因として、遮光資材の遮光率や使用方法も関わっている可能性があることを説明した。この鮮度保持のポイントにより、今年の品質向上につながることを期待される。



【農家と面談する農業普及課職員（古川町）】



【女性研修会（高山市）】

■水稻

### カメムシ対策検討会議の開催！

1月17日、JAひだ本店で飛騨農業振興会主催による「第3回水稻カメムシ等被害対策検討会」が開催された。

平成22年にカメムシの吸汁害による斑点米が多く発生したのを踏まえ、平成23年は、農林事務所、病害虫防除所、農協などの関係者で協議し、カメムシの発生予察調査や防除啓発などに取り組んだ。その結果、斑点米の発生を抑え、前年に比べ1等米比率を上げることができた(1/15 現在:うるち米70.3%→81.2%、もち米47.8%→60.2%)。

今後の対策としては、引き続き、カメムシ発生予察調査、農薬試験、防除啓発などについて取り組むこととなった。



【カメムシ対策検討会議（高山市）】

## 担い手の育成・確保

### ■加工グループ

#### ひだあねさ特産グループで研修会を開催！

1月18日、高山市桐生町のウェディングパーク高山フロアでグループ員等約50名が参加して平成23年度の研修会を開催した。

今年は、農業普及課が新聞紙ブローチづくりの講師を務め各々個性豊かな作品ができた。その他には、各グループ自慢の商品を持ち寄った昼食会や舞踊講習、グループ活動発表などが行われた。

さらに、飛騨市役所の軽トラバザールの取り組みや24年度の国予算についても説明があった。

今回の研修を通じて、各グループ員の絆がより一層深まったように思われる。



【ブローチを作る参加者（高山市）】

## 地域の動き等

### ■高山市

#### 普及指導計画検討会議を開催！

1月30日、飛騨総合庁舎にて「平成24年度普及指導計画検討会議」を開催し、高山市役所、JAひだ等の関係者42名が出席した。

この会議は、農業普及課の次年度の普及指導計画作成に当たって、各関係機関から意見、要望を聞き、内容を反映させるために開催した。はじめに農業普及課から普及指導計画の概要を説明した後、旧町村単位に分かれ、鳥獣被害などの地域の問題や今後の農業振興について意見交換を行った。

白川村は2月1日、飛騨市は2月3日に同様の検討会を開催し、計画内容について検討する予定である。

### ■高山市八軒町

#### 二十四日市にて飛騨農林事務所のPR！

1月24日、高山陣屋前広場にて飛騨農林事務所の職場研修の一環として、活動紹介のパネル展示や地元食材を使った鍋料理を無料で提供し、当事務所の活動や地元食材のPRを行った。

これは、旧歴の年の瀬市「二十四日市」に合わせ、「アレう

たてえな飛騨の味」と銘打って毎年行い、今年で4年目となる。鍋料理は、飛騨産の野菜やシイタケ、豚肉などを入れたオリジナルの「満菜鍋」で、計600食分を来客者に振る舞った。



【普及指導計画検討会議（高山市）】



【鍋を調理する農林事務所職員】

# 県内の産地の動きと専門普及指導員活動状況

農業経営課技術支援担当

平成 24 年 2 月 1 日現在

## 1 専門普及指導員としての活動、指導内容（対策、支援等）

### （1）普及指導員等の資質向上

#### ◆高度専門技術（スペシャリスト養成：かき）研修を実施

「ぎふ農業・農村基本計画」で重要品目に位置づけられたかきを担当する普及指導員 3 名に、高度専門技術（スペシャリスト養成：かき）研修を実施した。6 月から、かきの栽培技術、普及手法、県外産地の動向、市場流通についての研修を進めてきた。4 回目の 1 月 24 日に、これまでの成果と今後の取り組みに向けての検討を行った。本研修では、今後のかき産地を誘導していける普及指導員を養成するため、SWOT 分析を中心とした産地の現状分析、課題の抽出方法等の普及手法の習得に力を入れた。受講生からは、SWOT 分析を現地で行い、産地戦略の構築にむけて地域が動き出した事例が報告される等、今後の普及活動に研修の成果が今後の普及活動に活かされ、かき産地の活性化につながってゆくことが期待される。

（果樹

担当：石川 嘉奈子）

#### ◆「普及手法研修」を開催

1 月 31 日、普及経験が概ね 1～3 年の普及職員とそのトレーナーを対象に『普及手法研修』を開催した。今回は、各受講者が今年度取り組んできた普及活動事例の発表を行い、トレーナーとともに技術支援担当が、その活動方法の評価及びアドバイスをを行った。今後、年度末まで引き続き職場内研修（OJT）を通じて、普及指導員として求められる資質の向上を図る。

（花き・研修担当：井戸 誠二）



#### ◆「技術・経営強化(経営指導高度化)研修」を開催

1 月 23 日、経営指導高度化研修(第 7 回目/全 7 回)を開催した。研修最終日の今回は、中央研修の研修報告及び事例研究として 4 名の普及指導員の作成した「経営改善提案書」についての検討を行った。

午前には農林水産研修所つくば館で開催された「経営分析応用研修」参加者からの報告を、午後には各研修生から地域の状況も含めそれぞれの経営改善提案書を報告し、その後技術支援担当からの助言も交え意見交換を行った。対象とした経営体のニーズにより様々な事例が報告され、各自参考になった。

最後に、今回の経営指導高度化研修で学んだことを糧とし、今後の普及指導員活動に活かして欲しいとした。

（農業経営担当：遠山 敬司）

### （2）行政及び関係機関との連携及び情報の提供

#### ◆岐阜県ハイグレード稲発酵粗飼料利活用推進検討会の開催

稲発酵粗飼料の品質と収量を確保し、自給飼料の増産を推進するための検討会が岐阜



市で開催された。稲発酵粗飼料の生産、利用を行っている県内各地域の耕種、畜産生産者と関係機関の担当者が出席し、23年産の取り組みと収量、品質の目標達成状況等について情報交換した。いずれの地域でも家畜の嗜好性が良く品質面では高品質な飼料生産が行われたが主食米品種を利用した一部地域では低収量となったところがあり、次年度への取り組みに向けた改善点などについて提言した。

(畜産担当：浅井義男)

#### ◆国内農産物（岐阜県産）の銘柄設定へ申請

平成24年1月17日に小麦の産地品種銘柄申請に係る意見聴取会が開催された。岐阜県からは小麦新品種「さとのそら（群馬県育成）」と「きぬあかり（愛知県育成）」を申請しており、この2品種に関する意見聴取が行われた。現在この2品種は、現地において奨励品種決定現地調査が実施されているが、24年産の結果によって、25年産で大規模実証へと進める準備をしている。製粉加工試験を想定する現地実証試験となると、農業者戸別所得補償交付金の受益が減る、よって現地実証に協力した生産者に不利となる。これを回避し、現地へ新品種導入を順調にすすめるための準備であり、今春の決定公示が待たれる。

(土地利用型作物担当：吉田一昭)

#### ◆東海地域良質麦品種実用化・普及促進協議会の開催

平成24年1月31日に標記協議会が開催された。岐阜県で検討している小麦新品種「さとのそら（群馬県育成）」と「きぬあかり（愛知県育成）」（どちらも海津市で生産される）のうどん食味評価会が実施された。これには愛知県産の「きぬあかり」や三重県産の「さとのそら」もあわせて検討された。本県の23年産小麦は作況86、播種前契約数量対比44%と厳しい生産結果で、しかも原麦タンパク質含量もやや低かったものの、どちらも豪州産ASWには及ばないが、現在主力の農林61号以上の良好な麺色や食感のあるうどんに加工できると感じられた。実需者による原麦、製粉、製麺それぞれの特性についての分析評価結果は愛知県製粉協会から今後報告を受ける予定となっている。

(土地利用型作物担当：吉田一昭)